

提 言 書

七ぶらシネマ通り・七間町通りの明日に向けて

「ピンチをチャンスにする成長戦略」

七間町の明日を考える会は、七ぶらシネマ通り、七間町通り（以下2つの通りと後背地区を合わせて「本地区」という）を対象に、将来のまちづくりの緊近の課題として、静活移転後の地区の基本的な方向性を模索してきました。

近隣の方をはじめ、多くの市民、専門学校の学生などの若者との対話や近隣自治会へのアンケート調査、数多くの意見交換会の機会を作るなど、四十数回にも及び検討協議を重ねてまいりました。

このほど、近隣の方々も共感できる戦略的なまちづくりの基本的な方向を確認し、ご提言申し上げます。

本地区においては、静岡市の施策を踏まえつつ、「にぎわい（エンターテイメント）」と「暮らし」の2つの都市機能を再生し、「歴史」を感じ、文化的な下町力のあるまちを目指していくために、静活の3つの敷地を含め、地域活性化を進める重要なアクション・エリアとして「カルチャー・コンプレックス 7」という概念（コンセプト）を考え、来てよし、住んでよし、楽しんでよしの満足感がいつでも味わえる地区として再生していきたいと考えます。

また、このエリアを手始めに、連鎖的に周辺へと活力の風が吹くものと大いに期待しております。

平成22年9月29日

七間町の明日を考える会
会 長 牧野 隆
七ぶらシネマ通り繁栄会
会 長 柳沢良樹
七間町名店街
理 事 長 北村正敏
七間町町内会
会長代行 久保寅雄

『カルチャー・コンプレックス ^{セブン}7』

『カルチャー・コンプレックス 7』は、七ぶらシネマ通り周辺の拠点となる「にぎわいと文化」を創造し発信する機能集積地です。

これは、静活映画機能移転後、土地の有効利用を図り、周辺との関係性強化を進め、価値ある土地への転換を図る考え方の一つです。

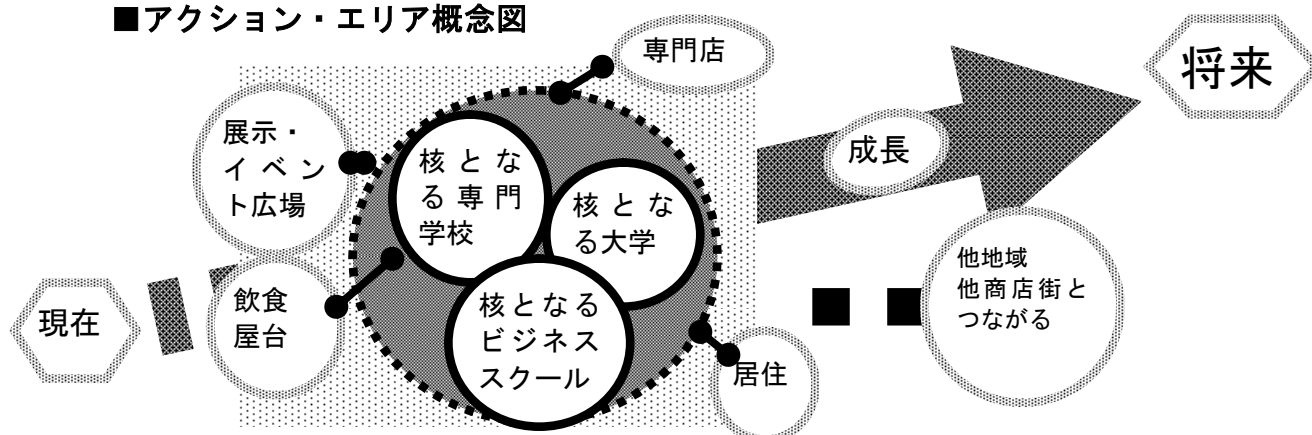
そして、まちづくりが連鎖する最初の場所として、静活の土地と周辺を含め「アクション・エリア」として考えてみました。

ここには、エリアの核となる専門学校、大学などをいくつか誘致して、集積させ、専門能力、技術力、知識力、情報力、マネジメント力、デザイン力、マーケティング力を提供し、人を集め・育て、人・情報ネットワークを構築し、にぎわいと文化の創造と情報発信を行っていきます。

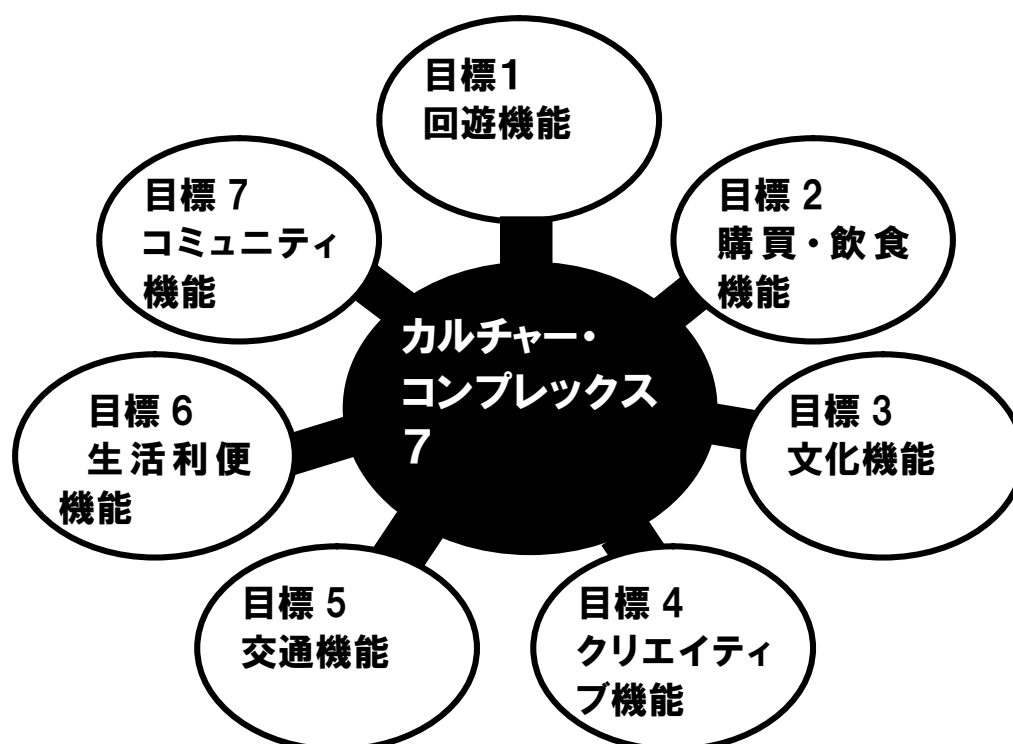
これらによって、本地区は多様な魅力のシナジー（相乗）効果、集客効果を発揮し、土地の価値を高めます。さらに、これらの施設と関連する展示・飲食機能、休憩機能、周辺地区などと連携し、さらに、通りの線から面へのスケールメリットを生みだします。

例えば、専門学校や大学・サテライトキャンパス、ビジネススクールなどをエリア内に集積し、これらと結びつく関連施設の誘致を行います。1つの施設の中だけで完結するのではなく、それらの幾つかが集まり、または単独で地区に分散し、独立・自立した特異な機能を発揮しつつ、有機的に連携し、群となりスケールメリットを活かした魅力を創り、成長をしていきます。つまり、時間とともに、周辺へと広がり、つながりあい、多彩な成長をし続けるのです。

■アクション・エリア概念図



こんな都市機能の導入を考えます。



※ 目標についての説明は7~8頁をご覧ください

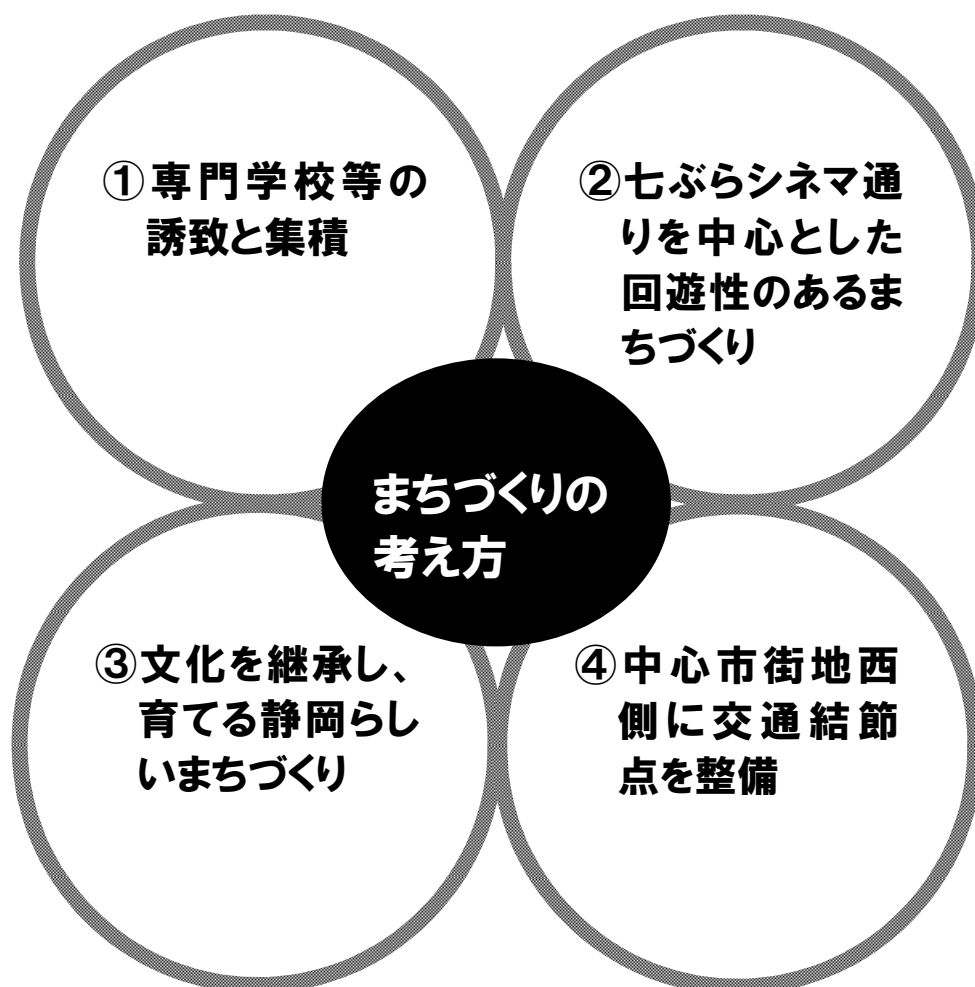
ここに集まるひとは・・・多彩なひと

若者だけではありません。
サクセスストーリーを手に入れたい人たちです。
夢を実現したい人たちです。
時間を創出する人たちです。
知識や技術力が欲しい人たちです。
こうした生活環境のなかで暮らしたい人たちです。
などなど多彩です。

この人たちの多様なニーズに応えたまちは

「まちの文化性が高まり、まちの雰囲気が大きく変わります」

アクション・エリアのまちづくりの考え方



① 専門学校等の誘致と集積

専門学校等の誘致と集積により、「にぎわいと文化」を創造し、情報発信します。

【専門学校等の集積による波及機能】・・・学生の存在は、まちのにぎわいづくりだけではありません。

- 学生が各方面から七ぶらシネマ通りに集合離散し、回遊性の向上（目標1:回遊機能）
- 通学時など、周辺商店街での購買・飲食機会の増加や常連客化（目標2:購買機能 飲食機能）
- 専門学校などの誘致は、今までの文化的なまちの継承（目標3:文化機能）
- 専門学校などの授業内容等により、才能・感性のある人材育成（目標4:クリエイティブ機能）
- 学生の移動手段に公共交通のターミナル化（目標5:交通機能）
- 学生の下宿化により、周辺のワンルームマンションの再活用（目標6:生活利便機能）
- 学生参画による地域祭など、顔の見えるコミュニティの創出や、人との連帯や文化の継承など、下町力のあるまちづくりが展開可能（目標7:コミュニティ機能）

② 七ぶらシネマ通りを中心とした回遊性のあるまちづくり

これまで、映画館を中心とした南北方向の流れに加え、青葉シンボルロードなど東西方向への流れを創り、歩行者空間や回遊性を高めます。

また、回遊性が高まると線から面へのまちづくりの展開が期待できます。

【回遊性による波及機能】・・・回遊性は、面や塊のまちづくりを創りだします。

- 東西方向の流れを創り、回遊性の向上
エリア内に「青葉シンボルロード」「常磐公園」「昭和通り」「人宿町通り」「別雷おでん街通り」等々、周辺の裏通りまで含めて本地区としての回遊ネットワークを形成します。
- 特徴ある小径(パサージュ)整備による新たな機能創出
別雷神社境内を核として、昭和通り、青葉シンボルロード、別雷おでん街、七ぶらシネマ通りを相互に往復できる小径(パサージュ)をつくり、沿道に小店舗集団を集積します。
- 広域的な回遊ネットワーク形成による中心市街地の活性化
七間町通り、青葉シンボルロード、駒形通りの南北回遊性に加え、呉服町、紺屋町との東西回遊性を高め、中心市街地全域の回遊性を強化するとともに、各エリア内の独自性を発揮しつつ、相互補完による機能を充実し、アクション・エリアの核施設の強化と中心市街地の活性化を促進します。

目標 1:回遊機能 目標 2:購買・飲食機能 目標 4:クリエイティブ機能

③文化を継承し、育てる静岡らしいまちづくり

イベント、展示機能のある公的空間を創出し、静岡らしい大衆娯楽文化を継承して育てるエリアとしてのまちづくりを進めます。

【大衆娯楽文化の継承・育成による波及機能】・文化の継承は、人と魅力を創りだします。

- 大衆娯楽文化が発揮できる場の創出
葵スクエアにあった旧・産業会館のように、展示、イベント機能のある公的空間は文化的なまちに必要です。
- 地域産業を紹介する場の創出
ホビーのまちとしてのプラモデルや自然環境を活かした茶、しらす、桜エビ農林水産物・加工品の紹介など、静岡の産業展示の場はクリエイティブなものづくり文化を育てます。
- 大衆娯楽文化の継承・醸成は交流人口の拡大に
周囲のおでん街、昭和の香りの残る大衆酒場、青葉シンボルロード、常磐公園などが連携して、雰囲気のある空間を形成し、大衆文化の継承・醸成は、市内外からの交流人口の拡大に寄与します。
- まちのシンボルづくり
静岡の大衆娯楽文化のまちのシンボルとして、「オリオン座の壁画」の保存、移設を検討し、静岡市民共通の文化遺産として考える機会を創ります。

目標 1 : 回遊機能 目標 2 : 飲食機能 目標 3 : 文化機能

④中心市街地西側に交通結節点を整備

七間町・いかづち神社前バス停をバスターミナルへ

【交通結節点による波及機能】・円滑な移動を促し、回遊性と移動性、歩行空間の魅力を創りだします。

- 道路体系と交通結節点の整備
コンパクトなまちづくりには、中心市街地西側の七間町に交通結節点を整備することは重要です。
現在の昭和通りは、北は静清バイパスと結ばれ、南は道路も拡張し、SBS 通り、南幹線、静岡大橋へもつながり、今後の静岡市街地交通網の要となることは、誰もが認めるところです。
- 多様な利用者ニーズへの対応としてのターミナル機能
現在、周辺住民および周辺事業所等の通勤者は、徒歩で市役所前、静岡駅前のバス停を利用し、バスの乗車客としてのニーズも高くなっています。
周辺住民の中でも車を運転しない高齢者にとっては重要なことであり、周辺各町内からは、「バスターミナル計画だけでも、とり急ぎ進めてほしい」という声が上がっています。
- 路線増便による移動円滑化機能の向上
学校の誘致には、JR 静岡駅、新静岡センターから多くのバス路線が七間町を通ることが望まれます。将来、LRTとの連携を視野にいれています。

目標 5 : 交通機能

こんなまちづくりがいいな

●地区の歴史と文化を大切にしたまちづくり

安倍の市から始まった **歴史**

大衆娯楽(劇場・映画館)の中心地であり続けた..... **文化**

呉服町・紺屋町・両替町とはちがう七間町とその周辺の..... **下町力**

私たちは「アクション・エリア」の整備をテコにして、地区特性を活かし、身の丈にあった連鎖したまちづくりを展開していきます。

「ワクワクするまち」

暮らしに息づくエンターテイメント
歴史ある娯楽文化が息づく
時間消費ができる
また来たくなるまち

にぎわい・
文化の創造
と情報発信

毎日 満足が見えるまち

七づらシネマ通り&七間町通り

「みんなが暮らしたくなるまち」

暮らしが楽しくなる
顔の見えるコミュニティ
まちなかの便利さ
住みたくなるまち

まちづくりの目標

目標

- 1 楽しくブラブラ回遊できるまち
- 2 買う楽しみや旨いものが豊富なまち
- 3 歴史を感じ映像文化（産業）が育つまち
- 4 感性・からだを磨くまち
- 5 まち中に導く交通結節点のあるまち
- 6 暮らしを楽しむことができるまち
- 7 顔の見えるコミュニティがあるまち

●目標1 楽しくブラブラ回遊できるまち

回遊性のある歩いて楽しいまちにしていきたい。木陰や休憩できるポケットパークがあり、そこにはカフェあるなど待ち合わせにもおしゃれな通りを創りたい。

●目標2 買う楽しみや旨いものが豊富なまち

毎日の暮らしを豊かに、高めるような魅力的で個性的な価値を売る専門店がヒューマンスケールの通路に集積しパサージュ（小径）を形成したい。

また、静岡産の生鮮三品や加工品などを使ったおいしくて、おしゃれな飲食店が広場の周りなどに集まり、買い物、散策とセットとなって地産地消を楽しむ界隈を創りたい。

●目標3 歴史を感じ映像文化（産業）が育つまち

旧東海道の宿場町から発展し、芝居小屋、銭湯など庶民文化が息づき、社会経済の変化や生活者のニーズの多様化や高度化に伴い、映画文化が育ち、アニメや映像、アート、通信といった新たな技術や感性が融合し、新たな産業が生まれるまちとしたい。また、プラモデルやホビーなど産業展示できる空間も創りたい。

●目標4 感性・からだを磨くまち

さまざまな人が集まり、交流することで、この七間町には心地よい刺激が感性を磨き、クリエイティブな活動が展開され、体や心の健康も磨かれます。そうした環境のあるまちに育てたい。

●目標5 まち中に導く交通結節点のあるまち

七間町に来やすい環境に優しい交通体系がもとめられます。周辺から車や自転車を受け止め、公共交通機関に円滑に乗り換えられる西の交通結節点のあるまちとして、LRTが走り、周辺との回遊性を高めたまちとしたい。

●目標6 暮らしを楽しむことができるまち

まち中の居住は、利便性はもちろんのこと、刺激もあるなど最近ではあこがれる場所でもあります。立地条件を活かしたどこにもない居住空間の提供や子育て、健康福祉などにも配慮した暮らしやすい環境を整えたまちとしたい。

●目標7 顔の見えるコミュニティがあるまち

安全で安心できる環境は、まちづくりの基本です。その中で豊かな人間関係を築いていくことのできる新しいコミュニティづくりができるまち、しくみやしかけが求められています。

地区の位置づけ

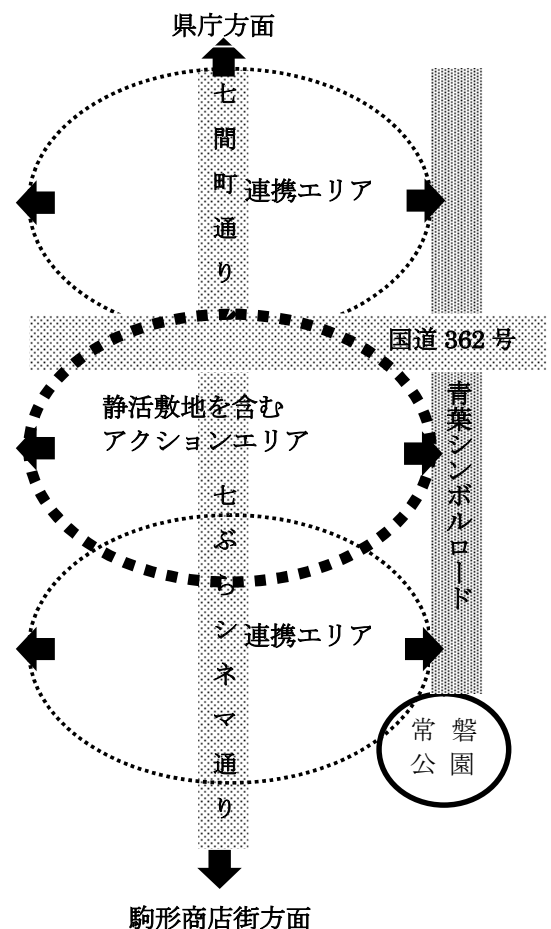
- ① 中心市街地西側の集客の拠点形成を担う
- ② 中山間地域や周辺地域からJR駅前地区をつなぐ交通中間結節点を形成
- ③ 中心市街地内における歩行者の回遊性と魅力的な空間の形成

本地区は、中心市街地の西側に人の集まる拠点を形成し、その他の拠点と有機的につながり、中心市街地の都市機能の充足や空間の質の向上、歩行者回遊性を高める補完的な役割を持っています。

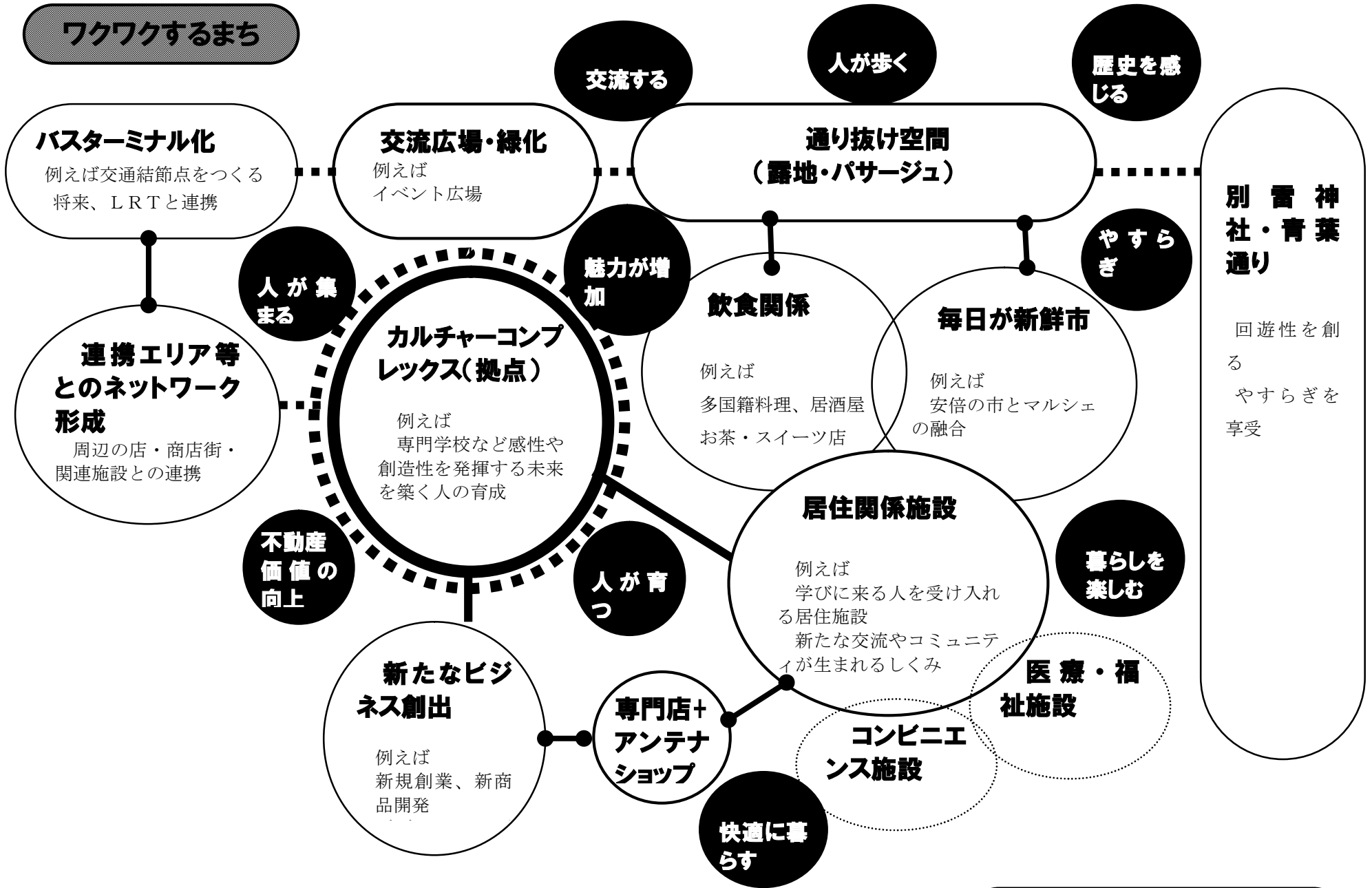
また、中山間地域や周辺地域からJR駅前地区をつなぐ交通結節点の役割を持ち、車から自転車・歩行、公共交通による環境にやさしく、だれもが円滑に移動ができる交通機能を促進したい。

■ 概念図

はじめに整備を進める アクション・エリア
まず、最初に整備を始めるエリアは、静活の映画館のある敷地を中心に近隣が賛同した区域です。
そして、通りを軸に青葉シンボル通り等に向けた回遊性をつくり、連鎖的に活性化を促進したい。



ワクワクするまち



みんなが暮らしたくなるまち

今後の進め方

静活敷地及び周辺の方が中心となり、考える会の世話役のもと、組織強化やまちづくりの勉強会等について、行政の支援を受けながら、総論から各論へと内容を検討していきます。

この段階は、それぞれが情報や知識を共有して、近隣住民の方や行政、事業者など、それぞれが幸せになる内容を検討していきます。

これからの組織の姿

